

せいかカフェ・ラボまちづくり提言書 「重点的な取り組み」事項 対応表

- 1：計画（基本構想または基本計画、以下同様）に盛り込んだ事項
2：中長期的な課題となる事項
3：具体的施策立案の際に参考とする事項

▼せいかカフェ・ラボまちづくり提言書から抜粋

NO	グループ名	重点的な取り組み	重点的な取り組み_概要	対応区分	考え方	基本構想(資料1)・計画(資料2)該当ページ
1	A学研都市建設グループ	京阪奈新線の延伸の実現の要望(企業・住民一体で)	進出している企業や通勤している社員も屋間人口の代表として、そして、住民も一緒に、何かの機会で京阪奈新線延伸をもっと強く要望する。	1	提言のとおり、京阪奈新線の延伸については、要望活動を含め実現に向けた取り組みを進めていきます。住民参画の方法については今後検討します。	(計画P5)
2	A学研都市建設グループ	新たな公共交通の整備	様々な交通システムを組み合わせながら、京阪奈新線、あるいは生駒の方に新たな線を作るなど、買い物難民などの問題を解決する。	1	提言のとおり、京阪奈新線の延伸実現を目指すほか、新たな公共交通のあり方についても検討します。	(計画P5、17)
3	A学研都市建設グループ	環境維持費用の捻出のための情報発信	有数のIT企業を利用し、せいか祭りなども活かして、精華町はいいな、働きたいな、学びたいな、住みたいなと思ってもらえるように情報発信に取り組む。	3	提言いただいたように、今後も精華町の魅力を積極的に情報発信し、定住人口や交流人口、関係人口を増やしたい考えです。クラウドファンディングなど、具体的な取り組み内容については、今後の施策立案の際に参考とさせていただきます。	(計画P6,P9)
4	B学研都市未来グループ	町の発展のために住民・行政・企業の連携が必要。	個人だけでは発展しないので、交流のためのプラットフォームと世話役が必要。	3	提言のとおり、住民・行政・企業の交流・連携が必要だと考えます。具体的な取り組み内容については、今後の施策立案の際に参考とさせていただきます。	(計画P5、P57)
5	B学研都市未来グループ	世代間で楽しめるような精華町の魅力を発掘し、発信していくような場を持続可能な形で設定する。	精華町検定の作成、精華町RTA(ゲームイベント)の活用、精華町データベースの作成などを行い、また、情報発信の場とコーディネーターの設置を進める。	3	町の魅力発信の持続可能な仕組みづくりは必要であると認識しています。情報発信のための例示については、具体的施策立案の際に参考とさせていただきます。	(計画P6、P9)
6	B学研都市未来グループ	若者の意見を取り入れて、高齢者支援を行う。	高齢者サポートアプリ開発、ボランティア活動、そして、中高生の自主的活動を通じて、若者と高齢者が交流し、お互いを知ることになり、次の世代につなげていく。	3	世代間交流の重要性は認識しています。具体的な取り組み内容については、今後の施策立案の際に参考とさせていただきます。	(計画P33、P57)
7	C観光・産業グループ	町民が集う場作り。カフェラボ100軒。	縦のつながりが多いが、横のつながりが少ないので、同じ特技を持っている人たちなど、みんなが集まれる場所を各地域で作る。	1	趣旨は取り入れさせていただきます。小学校区単位で設置する広域コミュニティ施設の整備など、具体的な取り組み内容については、今後の施策立案の際に参考とさせていただきます。	(計画P57)
8	C観光・産業グループ	町の観光・産業の魅力を発信するしくみ作り。ヒト・SNS活用。	町をより知ってもらうために、まちあるきをやってもらえるような情報発信のしくみ作り。	1	趣旨は取り入れさせていただきます。今後もより強力な情報発信が必要であると受け止めています。	(計画P6、P9)
9	C観光・産業グループ	町内観光施設を訪れる観光客を誘引するしくみ作り。道の駅？！	町内の方も外の方も町内観光施設を目的に集まる場を提供する。	3	新たに集まる場を作ることは今後の検討課題とさせていただきますが、今ある町内観光施設を活かした観光客の誘引を図ります。	(計画P6、P9)
10	D健康・福祉・生涯学習①グループ	ボランティアについて考えるきっかけ作り	みんなで参加できるボランティア活動が大変重要。	1	提言のとおり重要なことと考えております。趣旨は取り入れさせていただきます。	(計画P33)

NO	グループ名	重点的な取り組み	重点的な取り組み_概要	対応区分	考え方	基本構想(資料1)・計画(資料2)該当ページ
11	D健康・福祉・生涯学習①グループ	生活に不便を感じない交通手段づくり	高齢者になり運転免許返納が多くなっているが、誰でもどこでも行ける交通手段がこれからも大切。	1	デマンド交通をはじめ新たな手法の検討など、趣旨は取り入れさせていただきます。	(計画P17)
12	D健康・福祉・生涯学習①グループ	多世代や同じ状況にある人が交流できる居場所を作る(カフェ・サロン・イベントなど)	—	1	提言番号7番と同様、趣旨は取り入れさせていただきます。	(計画P57)
13	E健康・福祉・生涯学習②グループ	拠点病院の設置	精華町で精華国保病院以外に拠点となるような病院があれば、高齢化の予防や子どもたちの急病にも対応でき、安心できる。	1	山城南医療圏のなかで、趣旨は取り入れさせていただきます。	(計画P27)
14	E健康・福祉・生涯学習②グループ	子どもの遊具の他に、公園に体力づくりの器具の設置など	子ども以外も使える体力づくりの器具があれば、高齢者と子どもたちや子育て世代の交流の場にもなって、体力づくりにもなる。	3	一部の公園には健康遊具の設置をしておりますが、その活用も含めて、具体的な取り組み内容については、今後の施策立案の際に参考とさせていただきます。	(計画P27)
15	E健康・福祉・生涯学習②グループ	コミュニティを活動支援し活性化していく	自治会や子供会などがどんどん活性化していくことでコミュニティ活動が力をつけて、様々なつながりも増えていく。	1	提言のとおりの方であり、趣旨は取り入れさせていただきます。	(計画P57)
16	F子育て・教育①グループ	農業生産体験から子育て支援	自然豊かな精華町の自然を活用した農業体験を通して、提供する側と利用する側とでWin-Winの関係ができるような子育て支援を実現させる。	3	現状の取り組みをさらに発展させられるよう、具体的施策立案の際に参考とさせていただきます。	(計画P9、P31)
17	F子育て・教育①グループ	学研都市の企業とのコラボレーションによって場を作り笑顔に	企業とコラボレーションすることで、子どもたちが未来の自分を想像できるような場を作っていく。	1	これまでから「科学のまちの子どもたちプロジェクト」と称して、立地企業との連携によりキャリア教育などを実施しており、趣旨は取り入れさせていただきます。	(計画P5)
18	F子育て・教育①グループ	SNSの活用、つながるアプリ	体験したいという思いに対して、情報が得られない、得にくい状態がある。その中で、どのような情報が欲しいかにも着目して、システムづくりを進めていく。	3	SNSの活用などにより、地域の人々や地域の資源を発見し、つながりやすい仕組みづくりについては、具体的施策立案の際に参考とさせていただきます。	(計画P6、P9、P61)
19	G子育て・教育②グループ	子どもと学生が考えるせいか祭り	子どもと学生がこの町のために何ができるかを考えてもらうために、せいか祭りのプロジェクトとして、せいか祭りにもっと積極的に子どもが関わってもらおう。子どもや学生にとっては経験にもなり、学校の中では学べないことを学べる機会になる。	3	イベント企画・運営に子どもや若者が主体的に関われる機会づくりについては、今後の施策立案の際に参考とさせていただきます。	(計画P5、P57)
20	G子育て・教育②グループ	誰もが情報をとれるシステムづくり	SNSや精華町のホームページなどを通して、子ども、学生、その親たちなど、みんなが情報を知れるようなまちにしていきたい。	3	提言いただいたように、SNSやホームページを活用した誰もが情報を得られるよう、具体的施策立案の際に参考とさせていただきます。	(計画P6、P9、P61)
21	G子育て・教育②グループ	特別な知識を持った人たちから子どもたちが学べる場所づくり	特別な知識を持った人たちから子どもたちが学んでいけば、子どもたちの視野も広がり、好きなものがその中にあれば自信につながる。	1	提言番号17番と同様に、学研都市の立地企業との連携による科学体験イベントなどの場を増やし、子どもたちの好奇心を育みたい考えです。	(計画P5)
22	H安全・安心・コミュニティグループ	人やものをつなげるイベントづくり	フリーマーケットや物品貸出、人材派遣、情報交換などギブアンドテイクができる場所を作る。	3	将来像で掲げた「つながり」が行政の各施策で実現できるよう、具体的施策立案の際に参考とさせていただきます。	(構想P8) (計画P57)

NO	グループ名	重点的な取り組み	重点的な取り組み_概要	対応区分	考え方	基本構想(資料1)・計画(資料2)該当ページ
23	H安全・安心・コミュニティグループ	人がつながる仕組みづくり	掲示板や回覧板などを使って、助けてほしいような人の情報を共有するなど、みんなで声を掛け合う、おせっかいをしていく。	3	提言番号22番と同様に、具体的施策立案の際に参考とさせていただきます。	(構想P8) (計画P57)
24	H安全・安心・コミュニティグループ	気軽に立ち寄れる場所づくり	役場や駅近くの便利で人が集まる場所に、交流もできるような気軽に立ち寄れる場所があると良い。	2	提言番号7番と同様、趣旨は取り入れさせていただきたいと考えますが、立地場所の確保については、中長期的な課題とさせていただきます。	(計画P57)
25	I精北小学校区グループ	空き家やむくのきセンターなどを利用した高齢者×若者の居場所づくり	高齢者がお茶などで団らん、学生が宿題をしている、教え合って勉強している、大人がリモートワークに使っているなど、小さい子から高齢者まで老若男女が気軽に寄れるようなスペースを空き家にする。	3	提言番号7番と同様、具体的施策立案の際に参考とさせていただきます。	(計画P57)
26	I精北小学校区グループ	子どもに自然と触れ合う経験を!	小さい子どもに自然に触れてもらうイベントや農業体験などをしてもらい、小さい内から自然は素敵だと、将来住む時にも残っていてほしいと思ってもらう。	3	趣旨を受け止め、里山保全活動をはじめ、子どもの自然体験や農業体験の機会を増やすことができるよう、具体的な取り組み内容については、今後の施策立案の際に参考とさせていただきます。	(構想P16) (計画P9、P31)
27	I精北小学校区グループ	“あいさつ”を通じた安心安全の街づくり	将来的に子どもが自由にのびのびと過ごせるような事故などがない安全なまちをつくる。	1	これまでから拡大あいさつ運動や子どもの見守りボランティアによる声掛けなどに取り組んでおり、趣旨は取り入れさせていただきます。	(計画P37)
28	J川西小学校区グループ	インフラ	JRや近鉄で東西に分断している道路をもっと利用し、それで発展してないところを発展させる。また、新線や小さなバスなどを活用して、駅前に人が集まれる状況を作る。	2	府道枚方・山城線の精華高架橋に続き、(仮称)川西線を東西の構想路線とするほか、京阪奈新線新祝園ルート延伸や祝園駅周辺の中心市街地の賑わい創出に取り組みします。	(構想P15、16) (計画P5、13、17)
29	J川西小学校区グループ	土地活用	公共交通網を整備することで大型商業施設にも行きやすくなる。スタジアムのように集客できる公園を作ることで、新しい人たちも入ってくる。サイクリングターミナルやサイクリングの人たちのための宿泊施設などを作り、お金を落として貰うための仕組みを作る。	2	具体的な提案内容については、中長期的な課題とさせていただきます。	(構想P16) (計画P17)
30	J川西小学校区グループ	住環境	小型住宅だけでなく、10年後、20年後、30年後を見据えて、大型マンションも作っていく。小学校から大学までの一貫校を作り、新しい人の循環を生み出す。最終的には川西だけで10万人を目指す。	2	京阪奈新線延伸を見据えた沿線開発による高層住宅の誘導も視野に今後の課題とさせていただきます。	(構想P14、16) (計画P13、61)
31	K精華台小学校区グループ	自治会のオープン化	学生世代なども入れて、かつオープンにして、自治会というところをみんなが通える場所にする。	1	地域コミュニティにおける多世代交流や地区集会所の活用などを通じて、趣旨は取り入れさせていただきます。	(計画P57)
32	K精華台小学校区グループ	住宅の循環	行政とタイアップすることで年齢層が高くなった方に移っていただくようなマンションを作り、年齢層が高くなった方の引っ越しを促進し、引っ越し後の家には必要な家族に入っていたかどうかという仕組みを作る。	2	提言番号30番同様、駅周辺を中心に、将来的な高層住宅の誘導も視野にコンパクトシティのまちづくりを進めます。	(構想P14、16) (計画P13、61)
33	K精華台小学校区グループ	企業と地域が日常的につながる	学研都市には、企業がたくさんあるので、企業と地域が日常的につながるイベントを開く。	2	企業と地域が交流・連携できる活動支援の方策を検討します。	(構想P16) (計画P5、57)

NO	グループ名	重点的な取り組み	重点的な取り組み_概要	対応区分	考え方	基本構想(資料1)・計画(資料2)該当ページ
34	L東光小学校区 ①グループ	企業を巻き込んだ交流イベントの開催	学研都市であるところをアピール、もしくは企業と一緒にやっていくために、企業を巻き込んだ交流イベントを開催する。	1	提言番号33番と同様に、企業と地域が交流・連携できる活動支援の方策を検討します。	(構想P16) (計画P5、57)
35	L東光小学校区 ①グループ	新旧地域での交流促進	旧地区東畑では人口減・高齢化が著しい。また、新旧地区同士の交流があまりなく、昔からある神社やお寺を知らないことが多い。「地域力の強化」が重要であると同時に、新旧地区お互いを知れるような交流促進をやっていく。	1	引き続き、地域力の強化への支援を行えるよう、趣旨は取り入れさせていただきます。	(構想P16) (計画P57)
36	L東光小学校区 ①グループ	IT技術を活用したコミュニケーション	企業の知恵を借り、IT技術を使ってコミュニケーションを取る。タオルかけ運動(一斉清掃の時に安否確認で家の前にタオルをかける)等も活用して、ITが苦手な人でも地域のつながりができるようにする。	3	IT技術を活用した地域のつながりを高める活動支援の方策を検討します。	(構想P16) (計画P57、61)
37	M東光小学校区 ②グループ	いつでも、誰でも参加できるイベントや居場所作り	いつでも誰でも参加できるようなイベントであるとか居場所などを作る。集会所はいつでも鍵が閉まっているので、いつ行っても誰かいて、いつでも利用できるようにする。	1	提言番号31番同様、地域コミュニティにおける多世代交流や地区集会所の活用などを通じて、趣旨は取り入れさせていただきます。	(計画P57)
38	M東光小学校区 ②グループ	行政(役場)と地域との意思疎通ができる仕組み・場	住民だけで何とかしようと思っても進まないことがあるので、行政にもサポートしてもらい、お互いに協力し合い、いろんな人と話をし、調整ができるような仕組みを作る。	2	住民の公共的活動に対する支援策として、庁舎の住民活用スペースの整備を進めます。	(計画P57)
39	N山田荘小学校区 グループ	山田川桜守・盛活動	樹齢40歳を超えると手がかかる桜の木をみんなで守ることで、いろんな世代が集まって、外からも人が集まる。	3	山田川と桜を愛し、守る地域の公共的活動を支援します。	(構想P16) (計画P57)
40	N山田荘小学校区 グループ	多世代が集まりたい・歩きたくなるまち	子育てを終えた世代の方もいるので、そういった人たちも桜や景観を中心に集まっていくようにする。	3	ふれあいゾーンとして、山田川沿いの整備について、引き続き京都府へ働きかけを行います。	(構想P14、16) (計画P57)
41	N山田荘小学校区 グループ	農業コミュニティ・豊かな田の活用	休耕地や耕作放棄地などを中心に外から人を呼び、また、それらを見に行くコースを作る。	3	町内まちあるきコースとして、山田川周遊コースを設定していますが、山田荘小学校区の豊かな田に焦点を充てた具体的施策については、今後検討する際の参考とさせていただきます。	(構想P16) (計画P9)